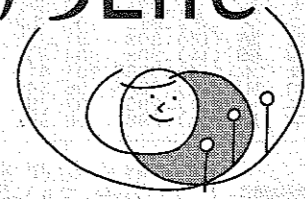


医療 年金 介護 雇用 ライフプラン

ゆづゆLife



医師であり、自らもがん患者である加藤大基さんは、がん患者の精神面への対応が必要と訴えます。しかし、医師の人手不足などで、サポートに限界も感じています。高齢化により、日本人のがん罹患率も高まるなかで、がんと共に生きる意識を広める役割を果たしたいといいます。

(聞き手 北村理)

自らもがんと闘う医師

加藤大基さん (36)

がん治療では、患者の精神面の負担が非常に大きい。医師は、そうしたがん患者の精神的ケアを念頭において、治療にあたるべきだと思います。

しかし、医師の立場でいうと、「医療崩壊」という言葉に示されるように、現実にはどうした余裕はありません。

がん治療では、患者の精神面の負担が非常に大きい。医師は、そうしたがん患者の精神的ケアを念頭において、治療にあたるべきだと思います。

しかし、医師の立場でいうと、「医療崩壊」という言葉に示されるように、現実にはどうした余裕はありません。

しかし、医師の立場でいうと、「医療崩壊」という言葉に示されるように、現実にはどうした余裕はありません。

がん治療では、患者の精神面の負担が非常に大きい。医師は、そうしたがん患者の精神的ケアを念頭において、治療にあたるべきだと思います。

しかし、医師の立場でいうと、「医療崩壊」という言葉に示されるように、現実にはどうした余裕はありません。

しかし、医師の立場でいうと、「医療崩壊」という言葉に示されるように、現実にはどうした余裕はありません。

しかし、医師の立場でいうと、「医療崩壊」という言葉に示されるように、現実にはどうした余裕はありません。

しかし、医師の立場でいうと、「医療崩壊」という言葉に示されるように、現実にはどうした余裕はありません。

激務から距離を置き 死への意識、傍らに 後進と医師の道考え



がんになって死と直面したことで、どう生きるかを改めて意識したという加藤さん

がんになって死と直面したことで、どう生きるかを改めて意識したという加藤さん

がんになって死と直面したことで、どう生きるかを改めて意識したという加藤さん

向き合って